

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	大阪府	市町村名	大東市	地区名	住道駅周辺地区	面積	123 ha
計画期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度	交付期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度				

目標

大目標: 中心拠点の魅力付けと防災拠点の整備による、安心・元気な都市環境の創造

- 目標 : 大東市の中心としての役割を高め、中心市街地の賑わいを再生する。
- 目標 : 防災拠点、避難路を整備し、地域の防災・安全性の向上を図る。
- 目標 : 交通網、交通結節点の整備改善により、安心・快適に暮らせる生活環境を創出する。
- 目標 : 住民によるまちづくり活動等を支援することにより、地域コミュニティの再生・形成を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・当地区は急激な都市化により、特に面整備について各種機能の適切な住み分けやゾーニングが成立せず、住宅地と工場の混在、宅地開発ブロックごとのつながりの悪さを生んでいる。さらに河川による生活圏分断や市街地拡大による浸水被害が生じ、その対策を優先に都市基盤整備を進めた結果、その間の人口増加に対する道路ネットワークの構築が遅れたことにより、大規模火災等災害時の避難路の整備、安全・安心の移動環境のためのバリアフリー化、さらには魅力的な中心市街地の未成熟など最も市民生活に身近な所での問題が山積している。
- ・駅北側の旧来の中心市街地と、公営住宅や高層集合住宅による都市居住型住宅地が形成されつつある南側を一体化できる動線を確保してまちの賑わいを再生し、あわせて、平常時には憩いの場となり災害時には防災機能を有する大東中央公園を結ぶことにより、移動と溜まりに重点をおいたまちづくりによる賑わいの形成が求められている。
- ・当地区は都市再生プロジェクト第3次決定(水循環系再生構想)モデル流域である。
- ・当地区周辺は「交通バリアフリー法」に基づき策定した「大東市交通バリアフリー基本構想」で重点整備地区内に位置付けられている。
- ・この基本構想は、高齢者・障害者・地域住民団体等市民の参画のもと策定された。また、年に1回障害者団体「大東やさしいまちづくり連絡会」が中心となって、市内のバリアフリー状況のチェックが実施されており、バリアフリーのまちづくりの気運が高まっている。
- ・上記の子育て支援・障害者団体等の協力を得て、計画の内容やタウンウォッチング、アンケート調査等広く住民の意向を図った。
- ・住民アンケート(大東市交通バリアフリー基本構想: (H14.1回.1,075票)、まちづくり交付金に関するアンケート(H16.1回.397票、賛同率90.12%)
- ・タウンウォッチング(大東市交通バリアフリー基本構想策定時に総勢74名)

課題

- ・人口減少・高齢化の時代において、市民生活の安定化、都市経営のための経済活力の確保のためには中心市街地の活性化が都市整備上の最大かつ喫緊の課題である。
- ・人口規模に対して中心拠点の機能が弱く、中心市街地の活力も低下している。
- ・河川や高い堤防等により街が分断されており、平常時・災害時にも安心・安全に移動(バリアフリー)できる人の動きや一体的な街の形成が進まないため、快適な生活環境を形成し得ない。
- ・住道駅の利便性が高まり、交通結節点としての機能が高まっているが、放置自転車や違法駐車が多くなり、通行の支障となっている。
- ・まちづくりへの住民参加の意欲が高まっており、さらなる参加を促進する環境を整備する必要がある。

将来ビジョン(中長期)

- ・商業・業務機能の集積を図り、情報・文化拠点として快適環境性豊かな「中心商業業務ゾーン」の形成を目指す。
- ・大東市総合計画では、住道駅周辺地区は文化や情報系の導入により、都心の高次機能を拡充するとともに、市民活動、生活・文化系サービス拠点化を図るべき地区と位置付けられている。
- ・都市計画マスタープランにおいて、JR住道駅周辺は本市の顔としての重要な役割を担い、中心市街地としてより一層の活性化に向けた検討をし、展開すること、住むことに誇りを感じられるまちへの先導役となる都市核としての整備を図ることとされている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
駅前の歩行者数	人	駅前の歩行者数 (交通量調査による)	市の中心としての役割を高めるため、駅前の歩行者数を増やし中心市街地としての賑わいの再生を目指す。	61,844人/日	H15	70,000人/日	H21
防災公園への避難可能人数	人	1分当たりの避難可能人数	災害時の避難路を整備することにより、1分当たりの避難可能人数を増やし、防災安全性の向上を目指す。	432人/分	H16	1,080人/分	H21
歩行環境の満足度	%	当地区における歩行環境の満足度 (満足度アンケートによる)	歩道がない、狭い等歩行者空間の歩行環境が不十分なことに対して、当地区の半分程度が満足する環境を目指す。	10%	H15	50%	H21
放置自転車数	台	当地区における1日の放置自転車数	通行障害となっている放置自転車を無くし、交通結節機能の充実を図るほか、放置自転車をなくすというコミュニティ活動の促進を目指す。	1,000台	H15	0台	H21
NPO活動団体数	団体	NPO法人認証団体数	市民のまちづくりへの関心度が高まっているにも関わらず、交流する場がないことに対してセンターを整備し、まちづくり活動を支援する。	11団体	H15	21団体	H21